

**平成 19 年度・平成 20 年度**  
**～「実践型人材養成システム」普及のための地域モデル事業**  
**実施団体好事例集～**  
**【⑤社団法人日本鍛造協会(鍛造工)】**

○モデル事業導入にあたって

鍛造をはじめとする素形材は機械設備や単純作業だけで生産できるものではなく職人的技能、蓄積された経験的知識に基づく秀でた現場技術に支えられている。

昨今の環境変化により、国内生産、海外生産ともに大幅な生産量の調整を余儀なくされ、従来以上に需要変動に迅速に対応出来る供給体制が求められるようになった。このような状況下において、国際競争力の強化及び新たな事業の創出を図っていくためには、企業において顧客のニーズを的確に把握し、そのニーズに応えた研究開発に努めることが望まれている。そのためにも正社員を中心とした人材の確保、定着、優秀な生産技術者及び熟練技能者の育成、技能の伝承が課題となっている。

当協会において人材育成・定着をねらいとする教育訓練システムを構築するとともに、「実践型人材養成システム」の教育訓練機関としてスクーリング講座を開設することによって、鍛造業界の発展の一助となることを期待し取り組むこととした。

○企業におけるメリット

- ・ 訓練生に対して労働基準法等で定められている年少労働者の危険・有害業務就労制限等の特例が認められる。
- ・ 自社のニーズにあった人材確保、鍛造業における体系的な人材育成及び教育体制の確立が可能。
- ・ 訓練実施にあたり助成制度が活用でき、訓練実施経費の負担軽減が図れる。

○モデル事業実施（訓練実施）における好事例

〈教育訓練機関から〉

- ・ Off-JT の講義については企業の専門家で現場に精通した方をお願いした結果、受講者からも「現場の様子等の話が聞けることに説得力があった」と高い評価となった。また、教室で単に講義を受けるのではなく、現場での実習や講師の体験講義の評価が高かった。

〈教育訓練機関講師から〉

- ・鍛造業の OFF-JT ではテキストに載せている写真の説明等だけでは受講生の理解度を高めるのが難しいため、企業の現場での実際の様子を動画として映写することにより、人と材料の動き、設備や機械がどのように稼働しているか具体的にわかるようにしたところ、訓練生から好評だった。

〈訓練実施企業から〉

- ・OJTにおいて、全体の訓練時間を確保する中で基礎実習と専門実習に分けて実施することで基礎から専門に内容を高度化しつつ習熟度・理解度を高められること、基礎が終わった時点でそれぞれの受講生の特徴を生かして各訓練生に合った専門を中心にした実習が行うことができた。
- ・訓練生には毎日レポートを指導員に提出してもらい、役員や部課長に回覧させ、全社で状況を把握するようにした。レポートの記入は、本人の習得状況の把握や疑問点等の仮題の明確化が出来効果的であった。また、指導員とのコミュニケーションにも役立った。
- ・鍛造は学校で教えるところが無く、新入社員に体系的に鍛造の基礎を教えるのは良い試みである。

〈訓練生から〉

- ・テキストがわかりやすく、現場でも活用できる。また、Off-JT の教材で配布された鍛造用語辞典は重宝している。
- ・熱処理の実験で、焼入れ、焼き戻し、焼きならしをやってみて、熱処理の理解度が飛躍的に上がった。材質の硬さによって変化すること等、熱処理の重要性がわかり、興味が持てるようになった。
- ・入社して間もない頃に受講させていただいたので知識を得るにつれて自分の仕事はどういうものかを知る良い機会になった。知識がない中で、基礎的な内容からの講義内容はとても頭に入りやすく、考え方などは講義で利用した資料を見返して仕事に活かしていると思う。
- ・工場見学をさせていただいた際、現場との直接のやり取りやコミュニケーションの大事さを学んだ。そのことが今でも自分が仕事をするうえでとても重要になっているし、体系的に現場全体を見ることに大変興味がわいた。

○これから取り組む企業の方へ

これまで人材不足の穴埋めはパート、派遣等の非正規労働者に頼ってきましたがこれでは日本の鍛造業の国際的な競争力の低下は否めません。重要なのは未永く働いてもらえる人材の確保と企業の技術力向上のための人材育成です。人材を大事にする企業は人材確保にも優位です。鍛造業界では幅広く人材育成を求められ、当協会では実践型人材養成システムを通じた人材育成に努めてい

くこととしています。